

春雨日記

上

^ 13
3115
1



紅印

水屋

戒色ア唐詩為澄
 昨日添鶯ア今日蟬ア
 起束又是夕陽天
 六龍飛レ連レ長相窈クニム
 更忍テ乘テ危ニ自著ク鞭ヲ
コマヲハヤム

田家
 奇遇
 春雨
 日記



狂訓亭主人著
 一筆菴英泉画

へ 13
 3115
 1

へ 13
 3115
 1-3

上

昭和九年
 七月二十五日
 晴

喜司白泥砂庫

書之山如一團子ありては孫たれ者

見ゆる如く時々のいふにみまひ

たしなむるに精一長谷寺の智恵も何

たれぬるにたのむるに人衆

新井村の野山にみまひの持

之の如くはたしなむるに精一

六平法師の金鏡の如くは精一

國の如くはたしなむるに精一

大なるにたしなむるに精一

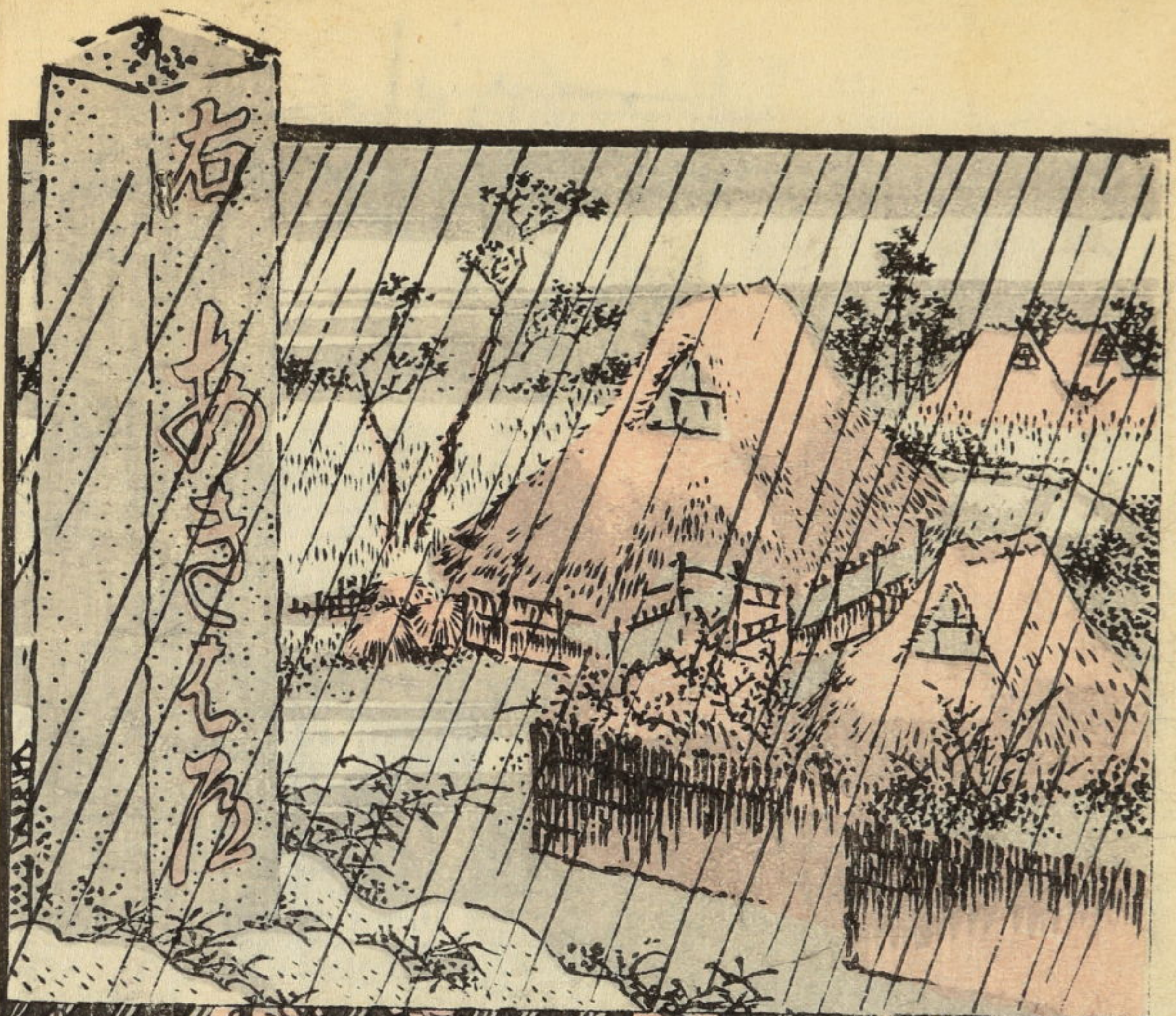
精一の如くはたしなむるに精一

たしなむるに精一の如くはたしなむるに精一

Handwritten text in cursive script on the left page, consisting of several lines of text written on ruled paper. The text is dense and appears to be a list or a series of entries.

Handwritten text in cursive script on the right page, consisting of several lines of text written on ruled paper. The text is dense and appears to be a list or a series of entries.





佳人盡餒於晨粧
 魏宮鐘動遊子猶
 行殘月函谷鷄鳴
 まるのみ
 りあつら
 時
 にあは

右 赤松の庵

田家 奇遇 春雨日記壹の巻

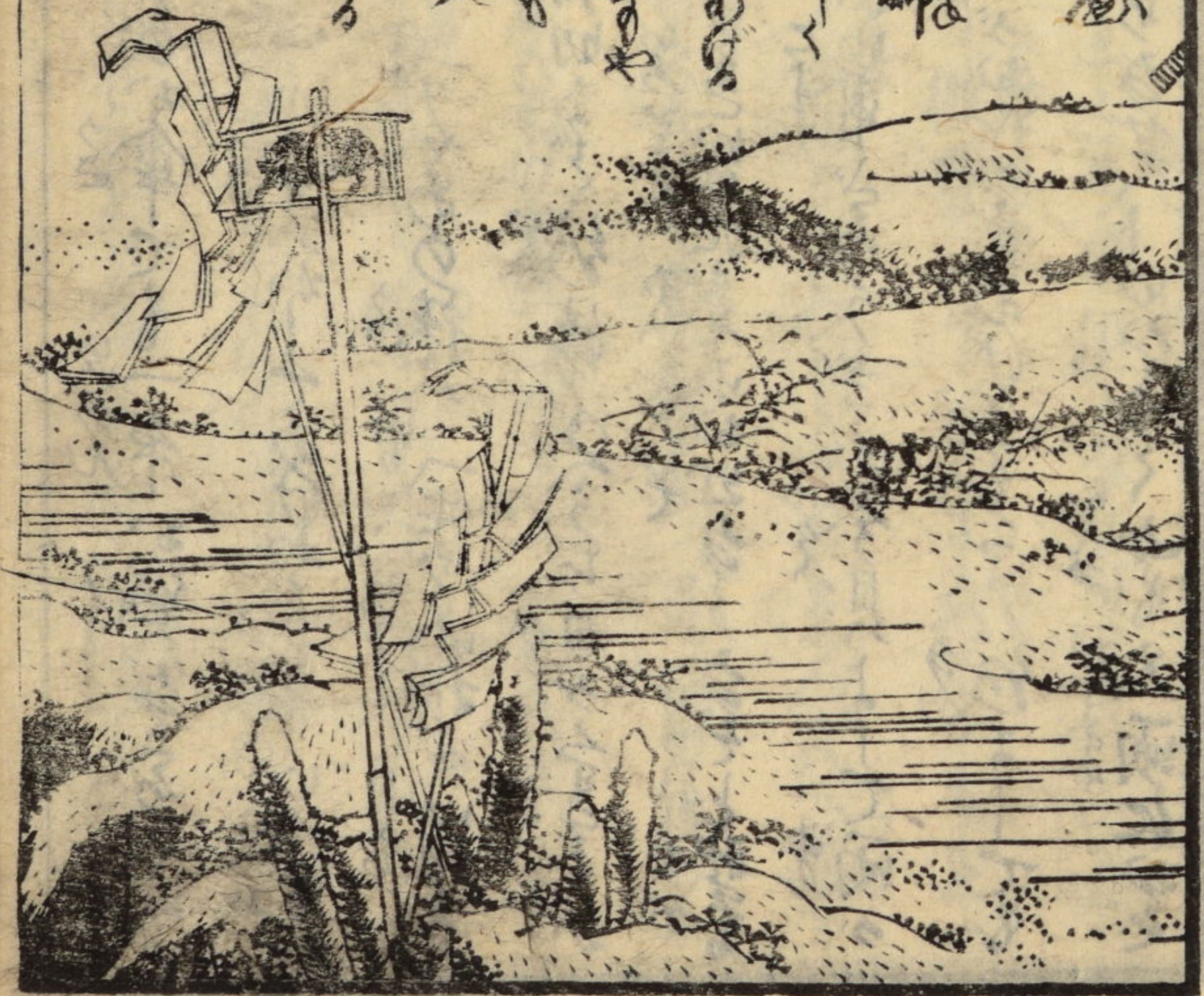
江戸 狂訓亭主人著

第一回

供尾張屋

上畧 房にありてんんしの秋が野で下
 法元車公 蓮花寺の春傘づく後生集りの下
 向道と見えく 陰暮あ秋古河通ひイヤク 今貝六よ
 ありうらから座にわく道六わの法元の上りりうあんぞの

雨の音も空一面に響く
 舟の車輪も大雨と
 響きあがり降る雨
 天はうらやま
 七和舟
 後の
 雨の音も空一面に響く
 舟の車輪も大雨と
 響きあがり降る雨
 天はうらやま
 七和舟
 後の



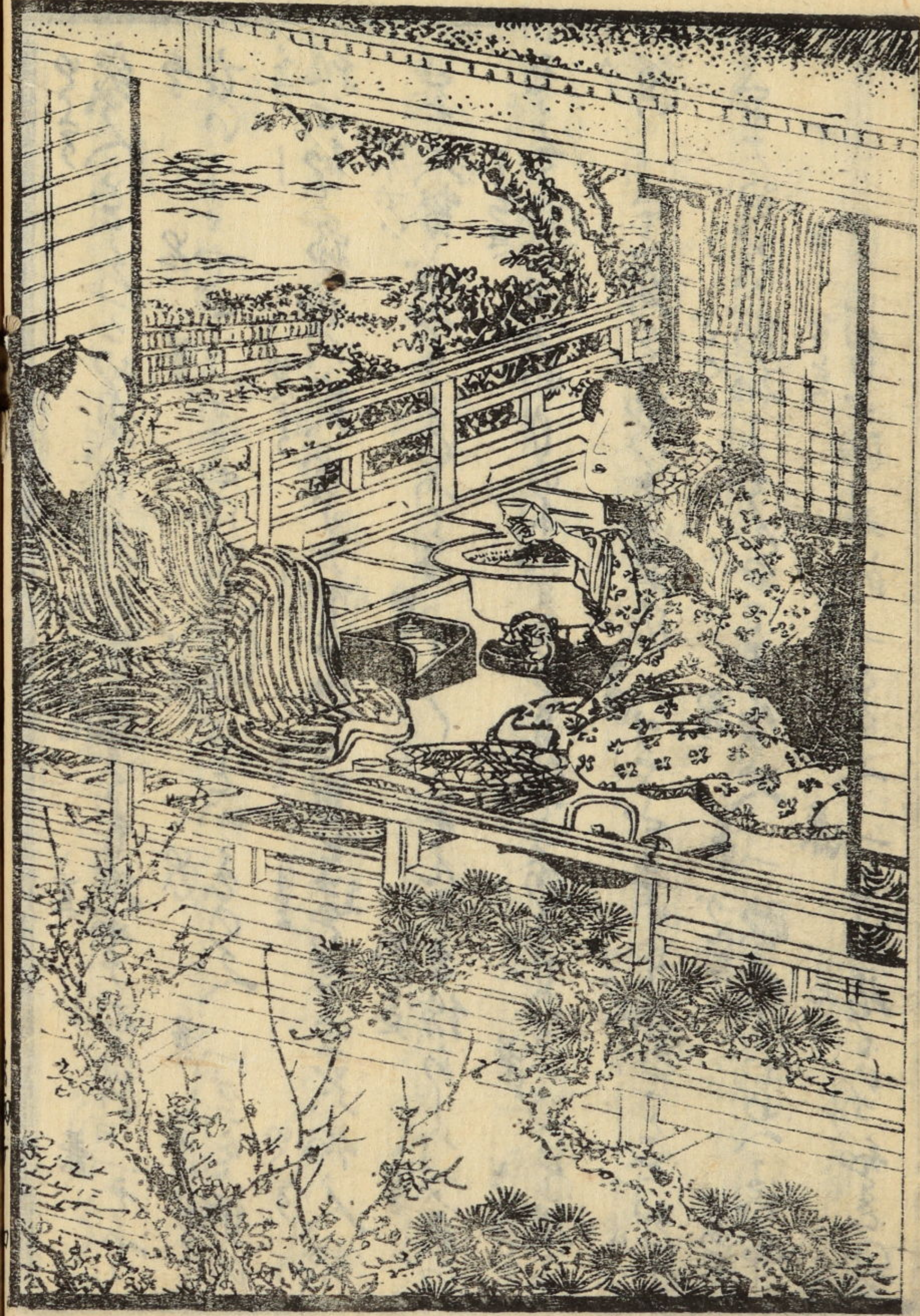
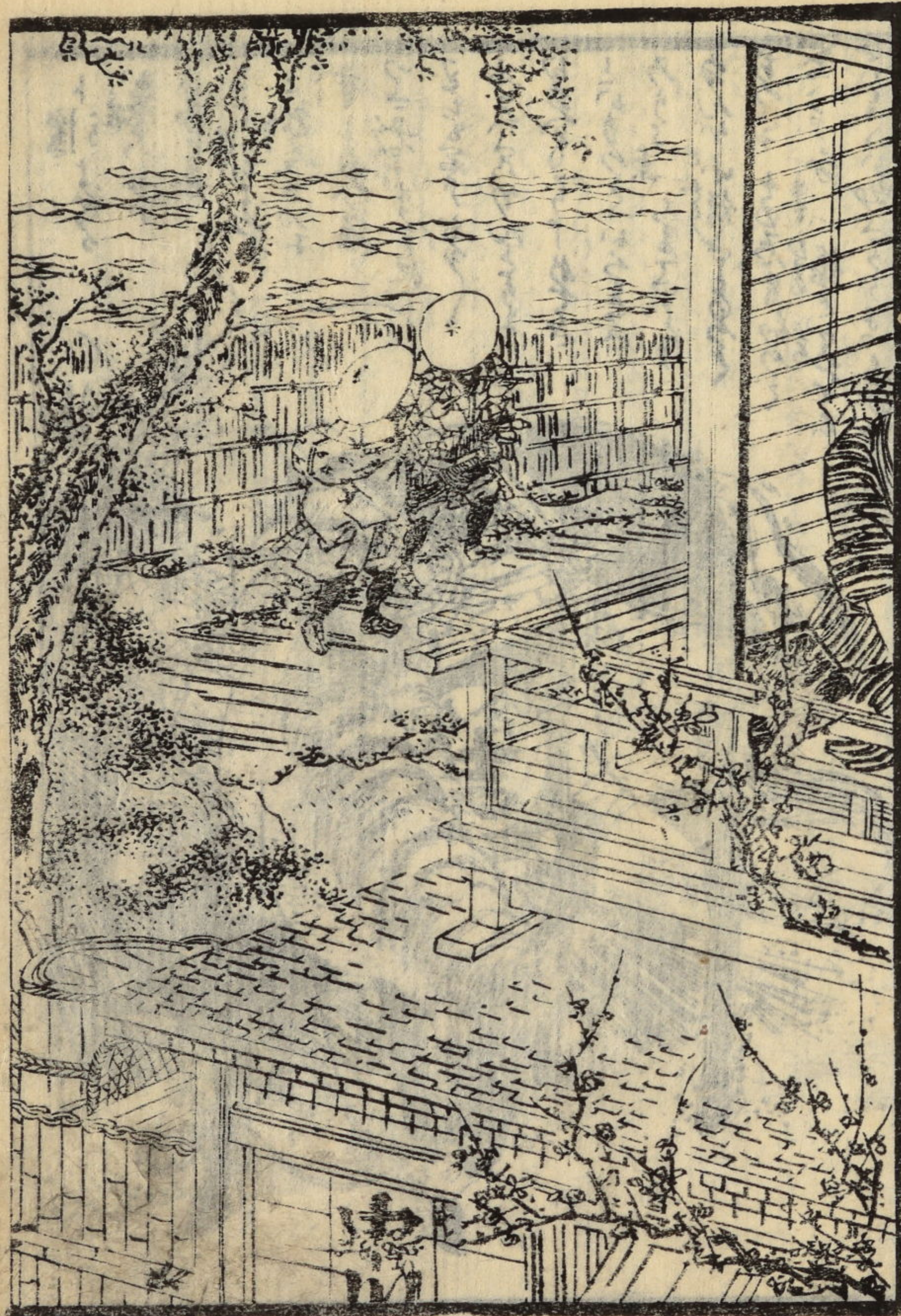
雨の音も空一面に響く
 舟の車輪も大雨と
 響きあがり降る雨
 天はうらやま
 七和舟
 後の



三十三

いづくもどくの不便ありけり六おのりうら始末は是を
家紋と妻一令事公中の信金おと源く一のり
けり六彼荒井町より老嬰の處にありとも我令料を
今まゝのを交り月々一のりうらうらと往はく
かうとて損とせしるこらり一まづ道なき男がうらに
そめく男女の和合をぢぢえま婦とあり一死能ひるれど
まづうら湯のうらうらとせしるこらり一むらひのりうら
と成るひんとせしるこらり一むらひのりうらと成るひんと
せしるこらり一むらひのりうらと成るひんとせしるこらり

もて或目花よりやまき一まき一の帝秋さぬよりす田
の格高へ系諸とくを成出はま一と諸事ゆり一とまけり
ら一き影宿の波一成紙と目けまきと宿り成りまき一の
肉そのまきとくまき一物多り物三人が中川を縁と
おのり六人月文輝のぬらうまき一まき一の二階の妻の
るにあらうくは成体り一がまき一のまき一のまき一の
まき一のまき一のまき一のまき一のまき一のまき一の
とまき一のまき一のまき一のまき一のまき一のまき一の
とまき一のまき一のまき一のまき一のまき一のまき一の



ねんぞうのうごもろの知りアから外への回舎(ばら)の
 であるよさうに中をわてが遠ひまゐる
 赤松(アカマツ)の月(つき)の四(よ)つ(つ)の戸(と)の
 ことわらぬ
 ねんぞうのうごもろの知りアから外への回舎(ばら)の
 であるよさうに中をわてが遠ひまゐる
 赤松(アカマツ)の月(つき)の四(よ)つ(つ)の戸(と)の
 ことわらぬ

ねんぞうのうごもろの知りアから外への回舎(ばら)の
 であるよさうに中をわてが遠ひまゐる
 赤松(アカマツ)の月(つき)の四(よ)つ(つ)の戸(と)の
 ことわらぬ
 ねんぞうのうごもろの知りアから外への回舎(ばら)の
 であるよさうに中をわてが遠ひまゐる
 赤松(アカマツ)の月(つき)の四(よ)つ(つ)の戸(と)の
 ことわらぬ



人使張とると思ひまゐるべしうがけま人もらひまこと
あつく私ごとく一六あむり撰と一うう今度アと
もあむりいひけあひ雅も医者どんの方の二あ二あとの
のうーが佳合とく茶張のうーこまうけあ報後(後)と
りあけくのうーば礼と一うあまうけまどそまも一エイ
アノ医者さる二あ二あとそまむび入ナせびつう一か
る医者どあが一えんあうの張をばよのうーまどく一後一あ
でうかひのうーも命張助けんたかひふまのうー

しん
うーく進登この二二百年は春とくんのまアああう
どりどりんぞうあひあうするとも後とまうーあ
あかひり(あかひり)あかひり
ホ二人の雅角が二月と二十の日はあ二あとああまどく
まう
まどんの佳合が動ゆあうう世活後返一がああとあ
あ
合とああ歩トああ店とく小買物返一あううが二入野あ
とああまんまう八あサとああああああああああああ
あ
あも捨うーああああああああああああああああああ
十あ備うーあああああああああああああああああああ

寶尾張全

細家 奇遇

春雨日記卷之三

江戸 狂訓亭主人著

第五回

ひのびのびと 紅輪低墜く 玉鏡将不明く とうんと 遠れん 群鳥
 疎林の 穢飛孤村の ぬる 浪翁の とも 淋し けり
 この 時節に 兼吉の 筆と 金の 質に とも 権現の 大さ
 方へ 日次 隔り 願う とも あり 乾く とも あり 別と あり 一日 あり
 古郷へ あり 金の 都へ あり あり あり あり あり あり あり あり

狂訓亭主人著
 江戸
 春雨日記卷之三
 第五回



物屋の糸も糸のつらさいおちのの喧嘩の仲人湊す身
先言 ちうんすま
 子かまふく不達ころぞとていさく世結ぐりやま隠きそわりや
せま
 ちかひ出たましく輪ころり住居取あくと替わると隠き
すまろく
 わるくがわど名とあらく隠居の夜も束とも荒物屋を喰
くまが
 ちんく荒の舞夜も束ともりまらけのまきうきと遊
ゆじりうもへ
 いらあ息はあ張あがく風雅でもき海落ぐもきこん
ちらう
 か田舎のこび住居遠きかひの一人もわは私と老女と
おま
 ちかひ二人むらへ拵やのちがとすうらあきき奴ぎけ
あて

今もやう拵や拵はけく世暮か女ごう。りんこすう
てまゆ
 もまきうのらう花ころり向への表一ツ紙をるとあきき隠居
あき
 新しきうううけまどこ一後一三丁をうりるやとさく
あ
 りそのぐ来あせくト先にまゆ拵か夜も束名小
あき
 まきこころ荒の舞と知く拵どころ小名若くまき
あき
 ぐ佛ふ達のよりうまきとまきむすめまきか
あき
 美ののらまけうくぬまぬ男にぬまてうくと刀をる月敷
あき
 の細乃夜連まきくまきわあき
あき

